

重要文化財八坂神社本殿保存修理工事

- ・事業主 宗教法人 八坂神社
- ・事業指導 文化庁文化財部参事官室（建造物担当）
大阪府教育庁文化財保護課
池田市教育委員会生涯学習推進課
- ・設計監理 (公財)文化財建造物保存技術協会
- ・工事請負 谷上社寺工業(株)
- ・工事方針 屋根葺替及び部分修理
- ・事業期間 平成30年4月～平成31年12月(21ヶ月)

・修理事業の概要

今回の修理は本殿の檜皮葺屋根の葺替、外部塗装の塗替が主な内容となります。他に腐朽した部材の取替、銑金具の修理を行います。

本殿は昭和61年に解体修理を受け、それ以降、平成7年の阪神・淡路大震災による復旧事業を別にして32年振りの大掛かりな修理工事となります。

工事中は建物を雨風から守るため「素屋根」と呼ばれる覆屋を建てて、この中で天候に左右されることなく計画的に工事を進めていきます。

工事は屋根の解体、銑金具の取外しから始め、続いて塗装のうち比較的問題が少ない塗膜については再接着となる剥落止めを行い、その後、剥離、褪色の見られる塗膜の掻き落としを行います。その後屋根を新しい檜皮で全面的に葺直します。なお、塗装工事で使用する膠(にかわ：顔料の接着剤)の性質上、条件の悪い夏季・冬季の施工を避ける必要があります。そのため塗装工事は時間をかけて行う計画としています。

・建物の破損の状況

屋根の檜皮は経年による劣化のため様々な破損が生じています。屋根全面的に檜皮が腐朽し屋根の厚みが減り、日当たりの悪い背面側では檜皮表面に苔が繁茂しています。檜皮自体も皮が繊維状に劣化し屋根葺材料としての役割を終えつつあります。特に正面側の破損は顕著で、一部では腐朽により檜皮が欠失し応急的な修理が施されています。

外部は全面的に塗装が施され、本殿を華やかに飾っています。しかしながら外部に面するため多くは経年により色の褪色が見られ、一部では剥離・剥落も見られます。特に文様等の彩色部分は一見、問題の無いように見えますが、上塗の塗膜は剥離して下塗が見えている状況となっています。

建物の要所に取付けられた銑金具も建物の華やかさを引き立てる要素ですが、その多くは本来の輝きを失っています。修理では全ての取外しを行い、歪みを矯正し表面には金箔を貼って銑金具本来の輝きを取り戻します。



本殿正面



本殿正・側面



本殿側面



本殿背・側面



全面的に劣化した檜皮葺屋根



上塗が剥落し下塗が見える彩色



剥離・剥落した塗膜



表面がくすんだ銑金具